
共同研究の概要

Outline of the Preparative Study

はじめに

本稿は、歴博が1998年度から2000年度にかけておこなった共同研究「東アジアにおける農耕文化の成立と拡散」（研究代表者春成秀爾・考古研究部）に関する事務報告である。

本研究の目的

東アジアにおける採集・狩猟経済から農耕経済への転換は、いかなる自然的・歴史的条件下で起こったのか。そして農耕社会の成立から都市の成立をへて、文明化（古代化）への道を歩むようになった契機・原因はどこになるのか、それを解明するのが本研究の目的であった。

さらに東アジアのこのような歴史動向を相対化するために、西アジア・ヨーロッパを舞台にした文明化・古代化の実態を明らかにすべく、その方面の専門家も含めた共同研究を目指した。

共同研究員

上記の目的を達成するために、中国・日本・西アジア・ヨーロッパの先史時代考古学を専門とする研究者を含む15人でスタートした。

宇野隆夫（富山大学人文学部／現国際日本文化研究センター）

袁 靖（中国社会科学院考古研究所／本館COE外国人研究員、1999～2000年度）

広瀬和雄（奈良女子大学／本館客員教員1998～99年度、現奈良女子大学大学院人間文化研究科）

甲元眞之（熊本大学文学部）

後藤 直（東京大学文学部）

常木 晃（筑波大学歴史／人類学系）

中村慎一（金沢大学文学部）

新田栄治（鹿児島大学法文学部）

量 博満（上智大学文学部／現名誉教授）

林 謙作（北海道大学文学部／1999～2000年度）

趙 輝（北京大学考古学系／1998年度本館COE外国人研究員）

木下尚子（熊本大学文学部教授／本館客員教員1998～99年度）

シュタインハウス、ウェルナー（ドイツ古代研究連盟1999・2000年度のみ）

仁藤敦史（本館歴史研究部）

設楽博己（本館考古研究部）

西谷 大（本館考古研究部）

西本豊弘（本館考古研究部）

春成秀爾（本館考古研究部）

藤尾慎一郎（本館考古研究部）

経 過

- 第1回研究会 1998年6月5～6日 歴博
3年間の研究計画の討議
宇野隆夫「西洋における農業文化複合の伝播と革新－弥生変革を考えるために－」
常木 晃「西アジアにおける農耕社会の成立」
量 博満「浙江省普安橋遺跡の発掘とその成果」
- 第2回研究会 1998年7月30～31日 歴博
広瀬和雄「日本農耕社会の基礎構造」
藤尾慎一郎「環朝鮮海峡における交流」
- 第3回研究会 1998年11月26～27日 歴博
趙 輝「以中原為中心的歴史趨勢的形成」
中村慎一「初現期の中国都市」
国際シンポジウムの打ち合わせ
- 第4回研究会 1999年3月11日 歴博
後藤 直「無文土器時代の初期農耕」
国際シンポジウムの打ち合わせ

1998年度の成果

農耕の始まり，農耕社会の成立，都市の成立というテーマについて中国・韓国・日本などの東アジアだけでなくヨーロッパ，西アジアまで視野を広げて，現在までの到達点を整理した。そのうえで，時間と地域を超えた新しい視点や問題点，課題を浮かび上がらせ，2000年1月に開催する国際シンポジウム「東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道」で成果を公表する基本方針を確認した。

東アジアにおいて先の3テーマをいかに解明していくか，調査例や資料不足がはなはだしい中で，現在の中国考古学ではどのように考えられているのか，シンポジウムで発表できるように準備することが確認された。

- 第5回研究会 1999年6月24～25日 歴博
甲元眞之「東アジアにおける農耕の起源と拡散」
今年度の方針について（国際シンポの日程とスケジュールを作る）
- 第6回研究会 1999年11月27日 歴博
国際シンポジウム実行委員会会議
- 第7回研究会 1999年12月3日 歴博
国際シンポジウム実行委員会会議
- 第8回研究会 1999年12月6日 歴博
国際シンポジウム実行委員会会議
-

1999年度の成果

本年度の発表は1本のみである。東アジアにおける稲作農耕の起源について、甲元が欧米の研究者の常道である自然科学と考古学の双方から迫った。その結果、なぜ一万年前に人と種子植物の関係が始まるのか、なぜもっと寒いころではないのか、を考える際の気温や森林と草原の分布などの基本的なデータが不足していることを改めて認識した。

あとの3回は年度末に開催する国際シンポジウムに向けての準備に集中した。

第9回研究会 2000年7月21日 歴博

春成秀爾「龍と農耕文化」

甲元眞之「中国新石器時代の生業活動」

第10回研究会 2001年3月24～25日 歴博

春成秀爾「福井県井向1号銅鐸の絵の分析」

宇野隆夫「武器の進化と退化の学際的研究」

西本豊弘「日本先史時代の家畜の問題」

2000年度の成果

シンポジウムの成果報告作成と研究発表を行った。研究発表のテーマは必ずしも共同研究のテーマと直接かかわらないものもあったが、甲元と西本の発表では、動物・家畜の問題が取り上げられた。甲元の発表では、家畜の役割には地域ごとに特性があり、肉・乳製品以外に祭儀の対象としての役割を重視すべきであるという意見が出された。また、西本の発表では、西本のいうブタが縄文時代までさかのぼる可能性のあることが明らかにされた。

以上の発表の内容は、次の形で公表された。

宇野隆夫 2002「東アジアにおける武器の画期」『武器の進化と退化の学際的研究—弓矢編—』国際日本文化研究センター共同研究報告，日文研叢書27，37～52頁。

甲元眞之 2001『中国新石器時代の生業と文化』中国書店。

西本豊弘 2003「縄文時代のブタ飼育について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第108集，1～15頁。

春成秀爾 2000「変幻する龍」『ものがたり日本列島に生きた人たち』5，絵画，15～63頁，岩波書店。

春成秀爾 2003「井向1・2号銅鐸の絵画」『辰馬考古資料館考古学研究紀要』第5号，55～84頁。

(藤尾慎一郎)